



新津第一小学校通信

もみじ

令和3年10月27日発行
No.17
児童数 414人

<http://www.niitsuiti.city-niigata.ed.jp>

1学期の取組を振り返って

学力向上の取組

全国学力・学習状況調査の結果について

全国の小学校6年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。

本調査は、国語、算数ともに第5学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容が出題されています。問題形式は、選択式、短答式、記述式となっています。

【国語】 学習指導要領の「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容が出題されています。

【算数】 学習指導要領の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域から出題されています。

調査結果 (平均正答率%)	教科	新津第一小	新潟県	全国
	国語		68.0	64.0
算数		71.0	69.0	70.2

～当校の学力の実態～

全国学習・学力状況調査の結果からみると、当校の6年生の学力は国語で全国平均比+3.7%、算数で全国平均比+0.8%となりました。国語が全国と比較して少し上位にあり、算数はほぼ平均並みとなりました。

【国語】

すべての内容が全国平均を上回りました。「読むこと」の内容が特に高く、全国平均比+6.5%となりました。問題の内容としては、文章全体の構成を捉えたり、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約したりする問題でした。

問題形式でみると、記述式の正答率が全国平均比+5.2%となりました。自分の考えを条件に合わせて記述（説明）する力が身に付いていることがうかがえます。

【算数】

領域別にみると、全国平均より高かった領域は全5項目中4項目（「数と計算」「測定」「変化と関係」「データの活用」）となり、全国平均より低かった領域は1領域（「図形」）となりました。

「データの活用」の領域が特に高く、全国平均比+5.5%となりました。内容としては、グラフから数量や関係を読み取ったり、作業に必要な要素を選択したりする問題でした。

「図形」の領域は、全国平均比-7.9%となりました。問題の内容は、三角形の面積の求め方や図形の構成要素、求積方法について説明する問題でした。

～当校の課題～

記述式の問題形式の正答率が国語では高いにも関わらず、算数では低くなっています。このことから、算数の図形領域に関しては、記述する力が低いわけではなく、図形領域の理解が確かなものになっていないことがうかがえます。算数の意味的理解が十分でないため、その求め方や考え方を説明することができないということになります。今後は、6年生に限っては図形領域の復習を図るとともに、全学年で、意味的理解を深められるような学習を展開していきます。

教研式学力テスト(NRT)の結果について

学校平均偏差値 国語52.5 算数51.8

各学年平均偏差値

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	未実施	52.8	53.8	49.9	52.9	52.9
算数	未実施	51.7	53.5	50.8	51.0	51.7

4月に教研式学力テスト(NRT)を実施しました。教研式学力テスト(NRT)は、一人一人、あるいは学級全体の現在の学力を全国基準に照らして客観的(相対評価により)に把握することができます。年度の初めに行うことで、現在の学力の定着度を知るとともに具体的な学習の対策に活用することができます。実施されたのは国語と算数で、上の表は各学年の平均偏差値です。

全校の傾向についてお伝えします。国語においては、「読むこと」の理解が伸びました。特に、「文章を読み、考えや感想などを伝え合う」ことが伸び、対話を通して考えを伝え合ったり、授業で学んだことの振り返りを書いたりしてきた積み重ねが成果につながったと考えられます。これから付けていきたい力は、表現する力です。国語の単元で学んだ内容を、作文やスピーチ、総合の発表など、様々な活動場面で活用し、経験を積んでいきます。

算数においては、「測定・データの活用」と「数と計算」の領域が伸びました。時刻、長さ、重さ、割合をグラフ化するという測定やデータの活用について、実生活に結び付けて考えていくことにより、理解が進んでいるものと考えます。課題は、4年生以降の数のしくみの理解と計算処理の力です。次学年に進んだときに困難さが増していくことが考えられます。計算ドリル等を活用して、計算処理の力を高める練習を学校や家庭学習で継続的に重ねていきます。

第2回家庭学習強調週間では、全校児童が「10分×学年」の家庭学習時間を達成することを目指して取り組みました。保護者の皆様の協力を得ながら、86.3%と高い達成率を実現しました。強調週間ということで、いつもより意識を高めて頑張ったことと思います。これをきっかけに家庭学習を継続的に行える児童が一人でも多くなることを願って、今後も続けていきます。学校でも指導や励ましを継続していきませんが、ぜひご家庭でも日常的に声掛けや励ましをよろしくお願いします。

よりよく考える授業の取組

校内研修テーマに「かわかりを大切に、よりよく考える子どもの育成」を掲げ、対話的な学習を通じた「思考力・判断力・表現力」を高める授業を目指し、取組を進めています。

今年度から本格実施となったGIGAスクール構想もあり、タブレットを活用した『対話的な学習』の充実に向けて取り組んでいます。タブレット(主にロイロノート)を通して友達と考えを交流し、自分の考えを深めていく姿を期待しています。

現在、タブレットを日々の授業で活用し、児童もタブレットの操作にだいぶ慣れてきました。タブレットを活用した『対話的な学習』を通して、学びを深める様相が少しずつ明らかになってきました。とはいえ、GIGAスクール構想も、まだ始まったばかりです。成果や課題から改善点を見出し、職員で共有しながら授業改善を進めていきます。



人間関係づくりの取組

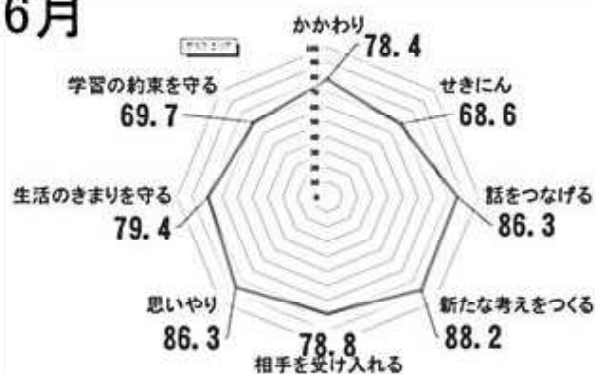
生活実態に根ざした学級力の向上を目指して

昨年度に引き続き、今年度も1年生から6年生までの全学級で「学級力アンケート」を実施しています。今年度は、学校の生活目標「かかわり・責任・思いやり」と関連させたアンケート項目を各学年で話し合っって作成し、学級力向上の取組に生活目標への取組を加え、児童が目標を設定しやすいようにしました。各学級では、学期に一回以上レーダーチャートに表された結果を基に学級会を開き、学級力を向上させるための話し合いをして、具体的な取組を行っています。

1学期の児童アンケートでは、「かかわり・責任・思いやりの3本の柱についての望ましい行動に進んで取り組んだ」という項目に「3本の柱ができた」「2本の柱ができた」と肯定的に答えた児童は、全校の91%でした。感染症対策のため、例年どおりに学級会や学級内のイベントを行うことが難しい状況下ですが、その中でも、児童は学級の課題と自分たちの生活の実態を主体的に捉え、生活目標を意識しながら行動しようとしていることが、この結果からうかがえます。

2学期も、アンケート項目の見直しと全学級での学級力アンケートの実施、その結果を基にした話し合いを継続して行い、学校全体で学級力の向上に取り組んでいきます。

6月



今年度はレーダーチャートに、「かかわり・責任・思いやり」の項目を入れました。生活目標を意識して、実態把握と振り返りができるようにしました。

特別支援教育の取組

特別支援教育部では、「全ての教師が日々の教育活動を特別支援教育の視点を意識して計画・運営する」ことを目指しています。

すべての児童にとって分かりやすく、意欲的に参加できる授業をつくるために、まず児童一人一人のニーズを把握し、有効な支援を話し合う研修を夏期休業中に実施しました。個別の支援が必要と思われる児童には個別の支援計画・指導計画を作成し、保護者の方々と一緒に適切な支援を考えていきます。さらに授業のユニバーサルデザイン化として掲置物等学級環境の改善、板書や操作活動の工夫や視覚化・スモールステップ化、タブレット等機器の有効利用、多様な学習形態による思考の共有化等、指導・支援方法の工夫を図ります。このように、学級全体への支援と個々の児童への配慮を常に意識して授業づくりを行います。

また、相手のよさを知り、思いやりをもってかかわる児童の育成を目指しています。日々の学校生活の中で、特別支援学級の児童と

通常の学級の児童とがともに学んだり交流したりすることを大切にするだけでなく、誰もが相互に人格や個性を尊重し、笑顔で支え合うことを目指します。



健康的な生活の取組

メディア時間への意識付け

「日頃から、ゲーム・TV・SNSの視聴時間を2時間以内にするように意識して生活している」と肯定的に答えた児童の割合は、79%でした。強調週間に合わせて、メディアに関する目標や約束を決めて取り組ませたり、家庭学習カードにメディアについての欄を設けたりする等、日頃から意識して生活できるように指導していきます。

6月 生活習慣強調週間①の実施

昨年に引き続き、「ゲーム・TV・SNSの視聴時間を2時間以内」という目標に取り組みました。6月の強調週間では、5日間で4日間以上達成した児童の割合は、79.4%でした。今年度より各ご家庭でメディアに関する目標や約束を決めてもらったことで、1時間以内やノーメディアに挑戦するなど、より意識が高まっている様子も見られました。

保護者

学校

地域

学校三師(学校医・歯科医・薬剤師)との連携

例年行っていた学校保健委員会ですが、昨年に引き続き今年度も延期しました。その中で、春の各種健康診断の結果をまとめたものをお伝えし、アドバイスをいただく等こまめに連絡を取り合っています。今後も児童の健やかな成長を目指し、学校医や歯科医、地域の皆様と連携していきます。

9月 生活習慣強調週間②の実施

6月の結果の分析や自己反省を基に、強調週間の2回目を実施しました。9月の強調週間では、5日間で4日間以上達成した児童の割合は、80.7%でした。目標や約束もレベルアップし、保護者の方から、丁寧に見ていただいたことがうかがえました。ご協力ありがとうございました。今後も引き続き、継続的に指導していきます。

体力向上の取組

○ 運動の楽しさを味わうことができる体育授業

「体育授業の時間になると、素早く体育館へ行き、準備運動をして体を温めたり、授業で使う用具を準備したりする」このような姿が、どの学年でも見られます。この様子を見ると、児童が「早く運動したい」と楽しみにしている気持ちが伝わってきます。



今年度の体育授業は、「運動すること自体が楽しい」ということはもちろん、児童が「運動それぞれの楽しさや喜びを味わう」ことを目指しています。例えば、陸上運動では、自己の記録の伸びに挑戦したり、仲間との競争を楽しんだりすること、ボールゲームでは、基本的なボール操作やチームで作戦を立ててゲームに臨むことです。

こうした運動ごとの特性を味わうことで、「運動することが好き」「体育授業が好き」という児童を育てていきます。

○ 友達とかかわり合いながら運動する

授業では、「友達とかかわり合うことができる場」を設定し、運動が「できる・分かる」を実現するための手段の一つとしています。友達を応援したり、運動のポイントをアドバイスしたりする様子が見られます。授業後の振り返りなどで、児童から「友達から応援してもらったので力を出すことができた。」や「○○さんから跳び箱の手の着く位置を教えてもらったのでできるようになった。」などの感想が聞けるとよいと考えています。



2人でボールキャッチをする場面。ボールの高さをどうするかを話し合いながら運動する。この後、ボールを2個にして難易度を上げる。

